

タイ語の「caj」について—日本語の「気」と比較して—

アラディー アピウオンガーム

1. はじめに

タイ語には「caj」という語を使った表現が多く、日本人のタイ語学習者を悩ますタイ語の慣用表現の一つだといわれる。日本人は「気」と「心」を区別できるが、タイ語の「caj」という言葉は日本語の「気」か「心」かの区別がしにくいと思われる。更に、「caj」の意味は「意」とも「識」とも「精神」とも関係がある。「caj」の他に「cǐd」という言葉があるが、「cǐdcaj」という言い方もある。「cǐdcaj」には「心」、「気持ち」、「感情」といった意味がある。そのために、「caj」と「cǐd」を区別しようとしてもできないことがある。本論ではタイ語の「caj」を日本語の「気」、「心」などと対照して意味的に分析したい。

タイ語の「caj」については富田竹二郎の『タイ日辞典』(1990 : p.495) は次のように述べている。

「心・気・気性・気質・氣息・中心・中央〔“心”文語では「cǐd」、「manta」、「mano」、「rythaj」、「harythaj」など。王語では「phrá thaj」、「phrá sat cha harythai」。「caj」は多くの熟語を作るが、「caj」が前に出れば「～の気質の」と修飾詞になり、後に来れば、「気を～する」と動詞になることが多い。例えば「caj dii」は「気の良い」、「dii caj」は、「気を良くする、喜ぶ」となるが、前に来るときには「中心」の意味になることもある。2音節語を装飾的に4音節に引き伸ばす時には「caj」の代わりに「ʔòg」(胸)、又は「nýa」(肉)を用いることが多い。例えば、「dii ʔòg dii caj」(喜ぶ)】

本論の研究方法

1. 夏目漱石の『こころ』を翻訳した Preeya Inkapirom の“Kokoro”を通じて本論文ではこの「caj」について日本文からタイ語訳になると、どのように使い分けがあるかを調べる。
2. タイ語の辞典における「caj」の定義と、文脈の中で訳された感情表現の「caj」とを比較して、「caj」の意味範囲を考察する。
3. タイ語の「caj」の慣用表現と日本語「気」の慣用表現を分析する。
4. 「caj」の表現に関してその意味にあてはまる日本語の「気」を考察し、対照研究を行う。

2. 語の構成形からみた意味の分析

夏目漱石の『こころ』(1914)の翻訳である Preeya の“Kokoro”のデータから「caj」の意味を分析する。

2.1 「caj」の複合形

データには「caj」がつく語は全部で44個あり、そのうち39個は(X-cajの形)であり、5個は(caj-Yの形)である。以下にそれぞれの形を表にしてまとめることにする。

- ① それぞれの語の意味の富田竹二郎の『日タイ・タイ日辞典 (1996)』による定義。
- ② 夏目漱石の『こころ』の語のうち Preeya Inkapirom の“Kokoro (1989)”が「caj」と訳した語。
- ③ それぞれの語が「気」を含んだ慣用句に直せるかどうか。
- ④ それぞれの語が反意語表現の「māj」を付けられるかどうか。
- ⑤ それぞれの語は強調する表現である「ʔòḡcaj」という複合語になることができるかどうか。
- ⑥ それぞれの語が文の中でどんな品詞としての役割をもつか。

③～⑥の判断は筆者による。なお表中◎は可能、×は不可能、○は場合により可能なものである。又、それぞれの語の例文を含むこまかい分析には本論文では立ち入らない。

2.1.1 X-caj の形

(1) (形容詞+caj)

表1) -a

言葉	『タイ日辞典 (1990)』による定義	訳された表現	「気」を含んだ慣用句に直せる	反意語表現 「māj」	強調する表現の 「ʔòḡcaj」の可能	動詞
[krûm caj]	悩む、ゆううつだ	苦しむ、困る	◎	◎	◎	◎
[ʔòb ùn caj]	気分が暖まる	暖かい声	◎	○	◎	◎
[thúg caj]	心苦	苦しい	◎	◎	◎	◎
[loḡn caj]	胸がすうっとする、ほっとする	安心	◎	[ʔyḍ àd caj]	◎	◎
[phuum caj]	誇りに思う	頼もしく誇り	×	◎	◎	◎
[takhĩd takhuǎŋ caj]	恥じる、てれ	不審	◎	◎	×	◎

	くさい					
[ʔỳd ʔàd caj]	心が詰まる、 息が詰まる、 困難せしめ	迷惑そうに、 苦しい	◎	◎	◎	◎
[sàj caj]	心に留める	心配、注意を 払う、気に留 める	◎	◎	◎	◎
[ramkhan caj]	いやになる	迷惑	◎	◎	◎	◎
[plèèg caj]	不思議に思う	驚く	×	◎	◎	◎
[dii caj]	気を良くす る、喜ぶ	嬉しい、愉快	◎	◎	◎	◎
[sabaaj caj]	気が楽だ	いい気持ちに なる、安心、 落ち着く、気 が強い	◎	◎	◎	◎
[kràwon kràwaaaj caj]	心が騒ぐ、胸 さわぎする、 心が不安にす る	焦慮	◎	[sabaj caj]	×	◎

(2) (動詞+caj)

表1) - b

言葉	『タイ日辞典 (1990)』によ る定義	訳された表現	「気」を含ん だ慣用句に直 せる	反意語表現 「mâj」	強調する表現 の「ʔògcaj」 の可能	動詞
[tân caj]	意図する、故 意に、志す	予期する	×	◎	◎	◎
[aw caj]	相手の気に入 るようにす る、ご機嫌を 取る	媚びる、ちや ほや、歓待さ れ	◎	◎	◎	◎
[kreenj caj]	遠慮	遠慮	×	◎	◎	◎

[laŋ lee caɿ]	ためらう、選 択に迷う	躊躇	◎	◎	○	◎
[kxɔŋ caɿ]	疑う、疑念を もつ	頭脳に訴える	◎	◎	◎	◎
[kaŋwɔn caɿ]	心配する、懸 念する	心苦しき	◎	○	○	◎
[pàŋ caɿ]	心に刺しこむ	信じて疑わな い	◎	◎	◎	◎
[chuâ caɿ]	信用する	信用	×	◎	○	◎
[ploŋ caɿ]	決心する	覚悟	◎	◎	◎	◎
[tham caɿ]	心を制御する	覚悟をもつ	◎	◎	◎	◎
[sɔŋ caɿ]	関心をもつ	注意、訴える	◎	◎	◎	◎
[tʃid caɿ]	気に入る、好 きになる、恋 する	引きつけられ る	◎	◎	◎	◎
[sàɿ caɿ]	心に留める	心配、注意を 払う、気に留 める	◎	◎	◎	◎
[plɛ̀ɛŋ caɿ]	不思議に思う	驚く	×	◎	◎	◎
[dyɿŋ duùd caɿ]	心を引き付け る	興味を与える	◎	◎	○	◎
[mii caɿ]	情け深い心を 持つ、親切に も~する気は ある	元気が出る	◎	◎	◎	◎
[khâw caɿ]	分かる、理解 する	解る、理解	×	◎	◎	◎
[hɛ̃n caɿ]	同情する、本 心が分かる	感傷を玩ぶ、 気の毒	◎	◎	◎	◎
[pratáb caɿ]	印象を受ける	印象を受ける	◎	◎	○	◎
[tòŋ caɿ]	驚く、びっく りする	驚く	×	◎	◎	◎

[phɔɔ caj]	満足する、意 にかなう	得心する	×	◎	◎	◎
[nɛɛ caj]	確信する	度胸	×	◎	◎	◎
[sɔm caj]	思い通りにな る	満足	◎	○	◎	◎
[mân caj]	確信する	自信	×	◎	◎	◎

(3) (名詞+caj)

表 1) - c

言葉	『タイ日辞典 (1990)』によ る定義	訳された表現	「気」を含ん だ慣用句に直 せる	反意語表現 「mâj」	強調する表現 の「?òġcaj」 の可能	名詞
[nám caj]	心情、本心、 性格、寛仁な 心、心意気	礼儀、親切	×	◎	◎	◎
[cǐd caj]	心、精神、感 情	胸、心	○	◎	×	◎

2.1.2 caj-Y の形

(1) (caj+句)

表 2) -a

言葉	『タイ日辞典 (1990)』によ る定義	訳された表現	「気」を含ん だ慣用句に直 せる	反意語表現 「mâj」	強調する表現 の「?òġcaj」 の可能	文の述語や気 質を表す言葉 など
[caj mâj juù kàb tua]	恐れ又は心配 意で気持が悪 い	神経を興奮さ せる	◎	×	×	◎
[caj mâj dii]	恐れ又は心配 意で気持が悪 い	気味を悪くす る	◎	×	○	◎

表2) - b

言葉	『タイ日辞典 (1990)』によ る定義	訳された表現	「気」を含ん だ慣用句に直 せる	反意語表現 「mâj」	強調する 表現の 「?ògcaj」 の可能	文の述語や気 質を表す言葉 など
[caj dii]	慈悲心のあ る、気の良い、 おひとよしの、 気をしっかりと 持つ	優しい	◎	×	×	◎
[caj krâa]	勇気な、大胆 な	大胆	×	×	×	◎
[cid caj khêmkhěɛŋ]		心じょうぶ	◎	◎	×	◎

3. 意義素と意味範囲

3.1 意義素の面

以上のデータからみると Preeya の翻訳の中で「caj」という表現は日本文の「気」の表現より使用頻度が高いと考えられる。「caj」の表現の数は日本語の「気」の表現の数より多いとは言えないが、文脈の中で、或は同じテーマの中で（この場合『こころ』の内容の中で）タイ語の「caj」は使用数が多い。特に『こころ』という作品は感情的な小説であるためタイ語の「caj」に直せる表現の数が多いのである。

3.1.1 タイ語の「caj」の表現の特徴は殆どの場合「?ògcaj」という複合語となることが可能である。タイ語は意味を強調するために、よく同じ意味の言葉を繰返す。この場合「oğ」（胸）と「caj」は同じ体の箇所にあるものであり、内面の意味においては同じように考えられる。日本語の「胸」の表現には「気」や「心」の意味もある。「胸を痛める、胸さわぎする」という表現があり、「胸がすうっとする」はタイ語では「loông caj」と表現される。或は「度胸」の表現はタイ語の「nɛ̌ caj」と訳される。

3.1.2 さらに、前掲の辞典にある「心が騒ぐ、胸さわぎする、心が不安になる」という表現はタイ語の「kràwon kràwaaj caj」という慣用表現になる。このことから、「caj」は「胸」の他に日本語の「心」の意味もあることが分かる。又、「caj khoo mâj dii」という表現は「caj + 首 + 否定語 + 形容詞」という構造の複合語である。この表現は胸だけではなく「khoo」まで感じるような表現である。前掲の辞典によると「caj khoo」は「気質」という意味であるが、「caj khoo mâj dii」

となると「恐れ又は心配で気持ちを悪くした」と書かれている。気持は「恐れ」という感覚である。文脈によっては「気味が悪い」という意味にもなる。「caj khoo mâj dii」は「caj mâj dii」の強調表現で、ほかに「cìd caj mâj yuù kàb tua」という強調表現もある。

3.1.3 タイ語の「caj」は日本語の「気」（慣用句場合）の意味より幅が広く使用されていると考えられる。それを理解するためにまず、「caj」の意味の範囲を検討する。

3.2 「caj」の意味の範囲

前掲のデータから検討すると次の12に分けられる。

気分：

[krûm caj] [oò uñ caj] [thúg caj] [lòóng caj] [phuum caj] [takhĩd takhuan caj] [ʔ
yɔd ʔàd caj] [siǎ caj] [ramkhan caj] [plɛ̀̀g caj] [dii caj] [dii caj] [sabaaj caj] [tòg
caj]

意志、意図、つもり：[tân caj]

満足、得心：[sǒm caj] [phoo caj]

気性、性質：

[caj dii] [caj krâa] [caj khẽ̃g] [mii nám caj] [cin caj]

行動：[aw caj] [kreen caj] [lan lee caj]

心配：[khôong caj] [kanwon caj] [caj mâj dii]

決心：[pàg caj] [chuâ caj] [plon caj] [tham caj] [mân caj]

関心、興味：[sǒn caj] [tĩd caj] [sà caj] [plɛ̀̀g caj]

[dyyn duùd caj] [mii caj]

理解：[khâw caj] [hẽn caj]

印象：[pratháb caj]

精神：[cid caj khêm khẽ̃g] [cìd caj mâj juù kàb tua]

神経：[cìd caj mâj juù kàb tua] [caj mâj dii]

4. 結論

4.1 夏目漱石の『こころ』を翻訳した Preeya Inkapirom の“Kokoro”を通じて「caj」の表現を検討した。又、タイ語辞典における「caj」の定義と、“Kokoro”の文脈の中で訳された感情表現の「caj」と比較して、「caj」の意味範囲を考察すると次のようにまとめることができる。“Kokoro”の中で「caj」という表現は日本語の文の「気」の表現より使用数が多い。更に、タイ語は意味を強調する時に、心臓の近くにある体の部位の呼称を使って表現をする。「tòg oğ (胸) tòg caj (びっくりする)」という表現では「ʔoğ 胸」という言葉を使って感情表現を作っている。更に、

「khoo」(首)を使った表現「caj khoo (首)」は「気質」という意味になる。日本語の場合、タイ語の「caj」に当てはまる「胸」という言葉において、「胸を痛める」や「胸がすうっとする」という表現などもあるが日本語で「首」を使って「気質」の意味を表す表現はない。又、日本語の「神経」という名詞において、「神経を興奮させる」の表現はタイ語では「caj mâj juù kàb tua」と訳せる。

4.2 「caj」は日本語の「気」の感情的な表現の範囲に入っている。特に「気質」を使って表す言葉が多いと推測される。更に、日本語の「心」という漢字を使う複合語(関心、決心など)の言葉は何でも「caj」で訳せる。関心を表す表現「dyng duud caj」、「sàj caj」、「plong caj」などは日本語の「心を引き付ける」、「心に留める」、「決心する」に対応できる。「caj」は「神経」、「精神」、「理解」、「興味」、「意志」、「印象」、「性質」、「つもり」などの意味と関係がある言葉に使われる。

4.3 「caj」と日本語の「気」が当てはまらないものとして「理解(khâw caj)」、「信頼(chyâ caj)」、「遠慮(kreeng caj)」などがある。タイ語では「caj」を使うが、日本語では「気」を使わないのである。相手に対して「mân caj (自信がある)」、「neê caj (確信する)」、「phoo caj (満足)」を使うことなどもその用例としてあげられる。だが「hên caj」という表現は翻訳の中で「気の毒」と訳されているが実は「同情する」にあたる。「気の毒」という場合には副詞として「naâ hên caj」というのである。

4.4 人の気質を表現する時は日・タイ両方とも「気」と「caj」で表現できる。例えば「caj dii (気が良い)」である。人の気質を表す「caj」を含んだ表現を使うが、日本語で「気」の表現を使わないのは「caj krâa (大胆)」と「cïd caj khêm kheên (心じょうぶ)」である。つまり、タイ語の「caj」と同様の意味で表現する複合語の日本語の場合、人の気性に対して必ずしも「気」を使うとは限らないのだということが分かる。又「phuum caj (自慢する)」、「sâw caj (悲しい)」などのタイ語の感情的な表現は日本語では「気」の表現を使わないと言える。

以上のことから分かるように「caj」=「気」というように直訳できない時がある。更に、自然現象(空気、雰囲気など)を表す場合の「気」という言葉も含んでいる。例えば、「気象」「電気」「大気」「天気」などである。又、注意を表す表現(「気をつける」=「rawag tua」など)や生理的意識の表現など(「気を遠くなる」、「気を失う」=「mòd satii」など)は「caj」の表現を使わない。

参考文献

赤塚行雄(1996)「日本における「気」の歴史—文芸社会学的な考察として」、『日本語学』7月号(第15巻7号)、9-19

秋永一枝(1996)「東京弁における「気」のアクセント」、『日本語学』7月号(第15巻7号)、38-47

大谷晋也 (1996) 「「気」の慣用句の結合度」、『日本語学』7月号 (第15巻7号)、55-68
小島幸枝 (1996) 「キリシタン資料における「気」」、『日本語学』7月号 (第15巻7号)、48-54
竹田健二 (1996) 「「気」の原義と「気」の思想の成立」、『日本語学』7月号 (第15巻7号)、20-28
彭飛 (1996) 「「気」「気配り表現」をめぐって」、『日本語学』7月号 (第15巻7号)、76-83
宮地裕編 (1982) 『慣用句の意味と用法』、明治書院

辞典

亀井孝・河野六郎・千野栄一編集 (1992) 『言語学大辞典』第3巻世界言語編 (下—1) 三省堂、
第1版発行
日本大辞典刊行会編集 (1972) 『日本国語大辞典』第一版、小学館
富田竹二郎 (1990) 『タイ日辞典』(改訂版) 養徳社
富田竹二郎 (1996) 『日タイ・タイ日辞典』(改訂版) amarin printing、バンコク
新村出編 (1998) 『広辞苑』第五版、岩波書店
松山納、坂本比奈子 (編 1981) の『タイ語常用 6000 語』第一版、大学書林
George Bradley Mcfarland. (1990) Thai-English Dictionary. Stanford University Press

資料

夏目漱石 (1972) 「こころ」『日本文学集』集英社、p.195-361
Preeyaa Inkapirom. Kokoro. Rungruangkanpim print, Bangkok, 1989

